
IS（インフィニット・ストラトス）～え？・・・狙ってませんよ？ホントですよ？～

他のリスナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インフィニット・ストラトス

ISへえ?・・・狙ってませんよ?ホントですよ?」

【Nコード】

N2175T

【作者名】

他のリスナー

【あらすじ】

兄はヨダレで殺された・・・そして私は鼻水で殺された――

神によってころされた主人公が今ここに――

ISの世界に転生する

第零話（前書き）

和訳です。それだけです。ここはとばしてもらってもかまいません。
話が進むたびに追加します。

第零話

プロローグ；A lady can die but once .

【少女は一度だけ死ぬことができる】

〃 転生フラグですね？わかります

ステータス；The more you shed tears ,
the stronger you can be .

【涙の数だけ強くなれます】

〃 神様からのチートでわっしょい！

第一話；They obey those who tore
them out of the soil .

【彼らはひつこぬいた者に従う】

〃 私はひろつてくれた人について行きます

第二話；Mankind is a species that
contends , envies others , hates
others , and cannibalizes .

【人類は、競い、ねたみ、憎んで、その身を喰いあうものだ】

〃 おかーさんがいればそれでいいよ？

第三話；Her skirt cannot be blown
by the wind , no matter how strong
the wind might be .

【彼女のスカートはどんなに強い風が吹いてもめくれない】

〃 変態にみせるものなんて何もないんです

第四話；I learned of a curse , and

couldn't sleep that night, because I was scared.

【呪の言葉を知った夜は恐くて眠れませんでした】

「おかーさんがいないと私は眠ることさえできません。」

第五話：The underwear a girl wears is said to influence the outcome of her love.

【彼女の恋の行方はパンツが握ってるそうなの。」

「好きなら好きなりに攻めればいいのに。既成事実をつくっちゃばいいのになんでやらないんだろ？」

第零話（後書き）

こんな感じです。どうでしょう？

プロローグ A l a d y c a n d i e b u t o n c e ・（前書き）

私は兄のことが分からない。

名前は知ってるいるけど呼んだことがなくて、兄妹だけど「お姉ちゃん」って呼んでしまったり、それは当然じゃないはずなのに、ありがとうはなくて、迷わなくて。

兄という生き物がなんなのかも、分かる気がしなかった。

でも、会いたい。

ただそれだけ。でも次生まれ変わるとしたらこんな気持ち抱かなくともいいように「兄はいらない」

そう・・・願いつつ

ブローグ A l a d y c a n d i e b u t o n c e .

○ side

兄が死にました。

いえ、恥しいことをいつものごとくやってしまつてクラスの雰囲気的に死んだとか、私の先輩に女装させられて男として終わったとかそういう話ではなく、命の蠟燭が消された、つまりは息をしてな

い。もう、あの笑顔をみることもできない。

父、母そして年の離れた弟も一緒に泣いたのを覚えている。

死因は圧死。原因は不明。なにかで体をつぶされており本人と確認されたのは近くに落ちていた学生証のおかげで、また近くによく一緒にいた学校の兄の後輩（私の先輩）が全身の穴という穴から血をだして同じく死亡していた。わかっているのはそれだけ。

犯人もわからずじまい。ニュースにもとりあげられ、警察のほうでも大規模な捜査がおこなわれた。・・・しかしなにもわからず。

そして、事件から現在。5年がたった。

「で？」

目の前に半裸で土下座している老けているようで老けてない若いようで若くない老人のような若者のようでもある自称神がいます。

「すみません、あなたを殺しました」

・・・なんかふざけたこと言っていないかな？

「は？」

．．．まあ、おちつけ．．．とりあえずさきをつながさないと

「はい、あなたの兄と同じように」

．．．は？なんかふざけたこと聞いたような？

「もう一回言ってもらえるかな？」

「私があなたの兄と同じように間違えて殺しました」

．．．よし犯人みつけた．．．この日のためにいろいろと鍛えておいてよかった

とりあえず殺ろう

——しばらくお待ちください——

(バキッ、バキッ、グチャッ) 「ギャーッ」

「なんで？なんでなの？なんで？なんで？なんで？なんで？
なんで？なんで？なんで？なんで？なんで？なんで？なんで？
なんで？！……！！……！！……！！……！！」

——しばらくお待ちください——

「なにこいつ．．．どんだけちぎっても砕いても元に戻るんだけど」

「で、私の行く世界はIS、インフィニット・ストラトスの世界なのね？」

「はい……はい！その通りです」

「で、願い事は3つまでと……5つね」

「え？．．．そんなことはでk」
「．．．」
「できます！はいっ！」

「わかればよし!じゃあ……………って感じでお願いね♪」

これでいいよね？お兄ちゃん・・・

「はい……わかりました！」

「じゃあ、行ってくるね？」

と、言い私は目の前の扉を開けその中に入って行った

) s i d e
E N D
)

ブローグ A l a d y c a n d i e b u t o n c e . (後書き)

シリアス苦手：(；´。´ω´)

ステータス T h e m o r e y o u s h e d t e a r s , t h e

コンビニに行った。「やさしいフルーツ・オレ」を買った。

だけれどやさしいって書いてるけど、私にはやさしくなかった。

だって、その時は虫歯だったから。

そんな日常・・・

ステータス The more you shed tears, the

名前； ●○ 樹里^{じゅり} ↓篠ノ之 樹里

原作開始時の特徴とか・・・

外見：身長138cm（鉄腕アトムと同じ身長）、スリーサイズB
76/W58/H74

長髪ストレート（白髪）、ヴィクトリカ・ド・ブロワの顔（
GOSICKより）

一人称；私

国籍；不明

年齢；12

性格：さびしがりや、人見知り、ブラコン（兄いないけど）、マザ
コン（重症）

好き；篠ノ之束、甘いもの、かわいいもの、整理整頓

嫌い；篠ノ之束以外の人（苦手）、苦いもの、おばけ、カレーライ
ス、虫、汚いもの、篠ノ之箒、織班一夏

父と母は日本人だけど、5歳の時に捨てられる。その後、束に興味
本位で拾われる。

名前は刺繍されていたが、苗字は書いてなかったため篠ノ之の性を

使わせてもらっ、もとい束の子供として育てられる。そして、束に依存する。

ISの研究を手伝いつつ、自分のISも開発する（詳細は別に）

願い事）

？転生後の兄と同じ顔

- ・この願いを願った時点で転生後の兄の顔は知らない。
- ・ブラコンなので兄とのつながりが欲しかった。

？その他の身体的特徴はそのままに原作開始時には身長130cm以上がいいな！

・元々の身長が129、5cmでぎりぎり130cmいかなかったのが悔しくて。

？原作にかかわりたいから篠ノ之束と知り合いに！

- ・元々の親には捨てられました束が義母になりました。

？IS判定『S』ぐらいください！

- ・判定『SS』がです。ちなみに織班千冬は『S』です。

？篠ノ之束と同等以上の頭脳と知識を！

- ・コアの精製もできるようになります。これによってチート開始です。

以上です

専用機については後々書いて行きます

ステータス T h e m o r e y o u s h e d t e a r s , t h e

基本はこんな感じでいこうと思ってます。

5 / 1 4 : あ . . . やべ、名前先輩の名前ミスってつけてた . . .
訂正しときます

第一話

They obey those

who torture them

僕はあなたに嘘をつく

砂漠の旅人が水を求めるように。

あなたが嘘（愛）を欲するのなら

僕はあなたに愛（嘘）を贈ろう。

いつかこの身に苛む毒になるにしても

あなたが僕の真実に気づかぬ限り。

——僕は祈る代わりに、嘘を吐く。

第一話 They obey those who torture them

Side ● 樹里

「ここにいでいいだろ」

「そうね・・・じゃあ、樹里？お父さんとお母さん、ちょっといくところあるからここでおとなしく待っていてね？すぐに戻って来るから」

「ほらっ、いくぞ」

しばらくした時に気付いた。

捨てられたのだと。

転生してなにもなく過ごしていけると思ってたんだけど

生まれ変わった家は不幸なことに貧乏だった

・・・私を育てられないくらい

不思議と涙は出てこなかった

でも、お腹空いたな・・・

｝side END ｝

｝side 三人称 ｝

その日、篠ノ之束は珍しいものはないか散歩していた

そして、道端に落ちていた人形らしきものを見つけた

「んゝ綺麗だねゝ洗ったら篝ちゃんのお土産になるかな？」

【注：落ちていたものを妹のお土産にしないであげてください】

すると、人形らしきものが束のほうに顔を向けた

「うわっ、束さんびっくりしたなゝ！君だれなの？」

「じゅり」

「じゅりちゃんかゝ、そうかゝ、うん、じゃあねゝ」

篠ノ之束は笑顔で歩きだそうとした

「じゅりちゃん？はなしてくれるかな？」

服の裾を人形らしきものがつかんてる

「・・・」

「ん？えっと、一緒にくるかい？」

こくり、人形らしきものが首を縦にふった

「じゃあ、君のおかーさんになってあげよう♪せーの！」

「お、おかーしゃみゅ・・・おかーさん！／＼／」

・・・こうして、樹里は篠ノ之束に拾われ篠ノ之樹里と
なった

【やり取りの不都合は受け付けない！】

Side END

第一話 They obey those who tore them

樹「おかーさん？」

束「ん？なにかな？きーちゃん♪」

樹「なんで、きーちゃんなの？私の名前はじゅりだよ？」

束「ふふん♪それはね？樹っていう文字は、『き』ともよむでしょだから、きーちゃん♪」

樹「・・・うっうん、わかったよ」

束「分かってくれたかい？きーちゃん♪」

第二話

M a n k i n d i s a s p e c i e s t h a t c o n t

子供の遊びを見てごらん。

彼らは利用するためにではなく、

建設したり破壊したりする活動そのものに幸せを感じている。

第二話

Mankind is a species that cont

Side 樹里

篠ノ之束もとい、おかーさんの娘になって次の日、織班千冬さんに紹介されていた

「束……貴様、どこの店からとってきたんだ!!」

あれ？まず人として思われてない？

「ちーちゃん？きーちゃんはね？女の子、人間だよ？ちなみに私の娘なのだ」

そうなのだ。昨日帰ってきてなにやらやっていると思っていたら、戸籍的にも娘になっていた。苗字もしものものになり、しものものじゅりになったのだ！

「なっ!?!……すまない、はじめまして。私の名前は織班千冬という」

あれ？人だったらどこから拾ってきたとか聞かないのかな？

「あの……えつと……その」

「落ち着け、深呼吸しろ」

!?!この人の目、こわい……おかーさん助けて

千冬（！？）

「ちーちゃん？きーちゃんを泣かせちゃ駄目だよ？」

おかーさんに抱きしめてもらえた……

「なっ！？私はなにもしてないぞ！？」

「ちーちゃん？その目つきだと思うよ？」

「これは生まれつきだ！」

「ほらっ♪きーちゃん、こわくないから」

「え．．．あ、うん……しののじゅり５しゃい……５さいです！」

あう、かんだ……

「よくできました♪」なでなで

おかーさんになでてもらえた♪あふあふ♪

「そんなことよりも「そんなことよりってなんだい！」

……すまない、今日も『あれ』の実験をやるんじゃないのか？」

「うん♪やるよっ」

「おかーさん、あれってなにかな？」

「ふふん♪見てのお楽しみだよ♪」

「なっ！？いいのか？見せても」

「いいんだよ！いいんだよ！この天才束様の娘だもん♪きっと理解できると思うよ♪」

「……お前がいいならそれでいいのだが」

「ここ……なに？」

いつもいる場所より奥の方につれてこられたのだがよくわからないところなのだ

周りを見渡すが、何かゴチャゴチャと散乱して

黒い布切れまで散乱している。食べかけのお菓子とかもなんかあるし……

「天才束様の秘密実験室♪」

じゃじゃ〜ん、と効果音がでそうな声でそう言っていたが……

まあ、よくわからないので聞いてみる

「おかーさん？ここで何作ってるの？」

「それはね？……皆で宇宙へいこうぜ マシンだよ♪」

「え？」

よくわからないので隣のオリムラっていう人をじっと見つめてみる

「安心しろ、私も分らないから」

うん、全く安心できるところがないね。

おかーさんは胸をはって、よくわからないけど満足気だったのでそれでいいのかもしれない。まあ……前世の知識的にはISのこともなんだろうけども。

「ん〜と？これってロボット？」

「おお！おいしいぞ これはね……………」

ためますね。さすがはおかーんです。

「インフィニット・ストラトス 略して、ISだよ」

おかーさん、普通それだけじゃわからないよ？

「まあ、あれだ。ロボットではないがパワードスーツみたいなものだ。わかるか？」

うん、普通の5歳の子供だったら分らないと思いますよ？

「おかーさん、すごいんだね！」

「えっへん」

すごい誇らしげだよ……

(「っそっそ」)

ん？

「そしてこれが設計図だけどわかるかな？わかるよね？すごいでしょ。」

おおーこうなってるんだ。前世のままじゃ絶対わからなかったけど知識チートってすごいね。ISのコアについても理解できる。…けど、あれ？ここって…

「おかーさん、ここなんだけど」

「ん？どうしたのかな？」

「あのね？あのね？つなぐとこ間違えてないかな？」

「そんなことないと思うんだけどな？……あれ？」

「ね？ここをこっちにつなげてここにつなげてたのをこっちにつなげたらいいと思うんだけど…間違ってるかな？」

なぜこんな間違いをしてたんだろ？まあ、どうせ後で気づいただろうが。

「！？すっごい！さすがは東さんの娘だね　きーちゃん！さあ、ハグハグしよう！」

！？あふへみゅ／＼／＼また抱きしめてもらえた／＼今日もいい日だなあ／＼

「……で、だ。樹里、もしかして性能に問題あったりしたのか？」

「あふあ、にや？えつと、腕とか足とか動かすのにすごい力を入れないといけなくなつてたはずですけど、ここをつなげ直してたら前よりも楽になると思いますよ？」

「……そして、束。言い残すことは？」

「ちよっ！きーちゃん！？なんで言っちゃうの！……ちーちゃんごめんってば！」

なにやらバタバタしてますがそんなことはいいでしょう。そんなことより私、駄目な子ですね。えつと、もうどうでもいいですね。私なんてゴミクズですね。ごめんなさい。いい子じゃなくてごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。余計なこと言つて、死んだほうがいいかな？ごめんなさい。駄目な子でごめんなさいワガママ言つてごめんなさい。こんな娘でごめんなさい。私が生まれてこなければ誰にも迷惑をかけることなんてなかったのに。私はすごく嫌な子だよな？ホントに死んだほうがいいのか？うん、そうだよね。こんな駄目な役立たず、必要ないよね？」

バチンッ

え？

いつのまにか二人とも黙つてこわいです。

「きーちゃん？なんでそんなことなのか？かな？」

おかーさん、恐いです。あと、声にでてたんですね。でも、間違つてないですよ？

「だって、私が、私が余計なことを言ったせいでオリムさんに怒られて、私なんていなければ！私なんて！わ「そんなことないよ」たs……え？」

「そんなことないよ？きーちゃんのこと私は必要だよ？いて欲しいよ？」

また抱きしめてもらえました。ホントに幸せです。

「だから死んだほうがいいなんていわないでね？」

ホントに今日はいいいです……………

｝side END｝

「……寝たな」

「ちーちゃん、しーだよ？あっちいこう？」

「ああ。」

｝side 3人称｝

「自分で泣いてたことさえ気づいていなかったな」

「うん、そうだね」

千冬は家族に捨てられ、束は世界に関心を失った。そして、樹里は家族に捨てられ自分を否定していた。

「……悲しいね……私達は……」

「そうだな……」

千冬は力、束は頭脳。樹里も頭脳という才能を持っているのだろうが、それだけなのに。

世界はなんでこんなに世界は、どうして私達に酷いのだろうか……

「ね、この子は私達が……」

） s i d e E N D ）

第二話

M a n k i n d i s a s p e c i e s t h a t c o n t

ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。すみません。シリアス無理です。無理なんです。僕、悲しいのを見ると泣いちゃうし、自分で書いて鬱になりそうでした。シリアスムード難しいです。でも、ここはないとあとあとあれなんで、でも次はキングクリムゾンという技を使わせていただきます。過去編？、一夏と第との出会いはまたあとでやります。

文章の誤字・脱字ありましたら、すみません。教えていただきたいです。あと、日本語がおかしいとか意味がわからない等ありましたら見なかったことにして次話を見てやってください。

第三話

H e r s k i r t c a n n o t b e b l o w n b y t h

青春とは絶え間ない酔い心地である。
すなわち、理性の熱病である。

と、いうわけでキングクリムゾン！

第三話

Her skirt cannot be blown by the

いろいろ、ホントにいろいろあって、だいたい7年後のある日のこと。

ある日、おかーさんがなにやら言ってきた。

「学園に行ってきた？」

「やだ」

何をふざけたことを言っているのだろ？まず、私は12歳なんだよ？IS学園（高校）？年上の中に入れと？いやだよそんなの。それに、あれだよな？オリムラなんとかさんっていう人の弟のあの変態がなんかISを動かしたからIS学園に通うとかいう話で、おかーさんの・・・認めたくもないが妹の刀振り回す殺人鬼も通うっていう話を聞いたんだけど、もしかしておかーさんに嫌われるようなことしたのかな？

「行つてきなさい。嫌ってないから。ね？ほらっ、泣かないの！」

「おかーさんと離れたくないんだもん！！」グスン

これは本心。転生したわけだが、もうそんなことはどうでもよく、ただおかーさんと一緒にいたかった。

「今年は篝ちゃんといっくんが入学するからね。きーちゃんも一緒に通っちゃいなよ」

「それがいやなんだってば！」

「もーしかたないなー」

あきらめてくれたのかな？今日もぎゅっとしてもらいたいな〜」

と、思っていたら首筋に何かをあてられ・・・

次に気付いた時は、どこかの教室に座らせられていた。

……………え？

しばらくの間、ぼけーっとしてると、人がたくさん入ってきた。

みんな遠巻きにこつちをみながらこそこそ何か喋ってる。

なにこれ、こわいよ。おかーさん、助けてよ。(´・ω・´)

ウウウ

しばらくすると、

「みなさん、入学おめでとうございます」

そう言いながら眼鏡をかけた女性が入ってきた。

「私の名前は山田真耶。このクラスの副担任です。皆さん、これから三年間よろしく願いますね。」

だいたいこんな感じのことを言っただと思う。でも、知らないよそんなこと。そんなことより私はなんでこんなところにいるんですか？そして、一年間もよろしくやりたくないです。帰れですよ！

そのあと、あの変態が副担任の人の胸を凝視しつづけ周りをみわたり、おかーさんの妹のほ、ほ、ほ何とかわって言う人の胸まで凝視し始め、副担任についてた人（以下眼鏡）が自己紹介を促していたのにもかかわらずに、ガン無視をしていた。

「織斑君、織斑一夏君！」

「はい？」

あの変態……本気で聞いてなかったんですね

「アから始まって今才なんだよね。自己紹介お願いできるかな？織斑君の番なんだけど……だ、ダメかな？」

眼鏡が上目づかい＋涙目で変態に迫る。……そんなことしたら変態が喜ぶだけですよ？あつ、それが狙いなんですね？そうなんですな？あつ、なんか自己紹介するみたいだ。

「えー……えつと、織斑一夏です。よろしくお願いします。」

そして、そこで自己紹介が終わる。……………まわりにいる人間達は
すかさずつつこみを入れている。

別に変態の紹介なんて知ったこっちゃない。なにかよくわからないけど、変態がはあはあしてるし。たしかに女子に囲まれてるとはいえ、一応学園なのだから学園内で発情するのはやめて欲しい。

「以上です！」

なにやらかつこつけていいやがりました。まわりの人間がこけて
ますね。しりませんが。

ゴッソ！

「いっつう……………げっ！千冬姉っ！？」

ゴッソ！！

「学校では織班先生だ！」

「先生。もう会議は終わられたんですか？」

会議って……………絶対あの変態とか変態とか変態の話でしょ

「あー、山田君。クラスへのあいさつを押しつけてすまなかったな。

」

ほんとだよ。全く、これがおわったら、おかーさんの所に返して
もらおう、そうしよう！

「諸君！私が担任の織班千冬だ！君たち新人を一年で使いものにするのが仕事だ。」

名も知らないモブ達「「「「「「「「きゃ〜」ry」「」「」「」「」

「千冬様よ！本物の千冬様よ！」

「私、お姉さまにあこがれてこの学園にきたんです！北九州から！」

じゃあ、私はあこがれても名前もまともに覚えてないから帰っていいですか？

「毎年これだけ馬鹿ものがあつまるものだ」

このクラスだけじゃないですか？

「おねーさま♪ もっとしかつてののしって?」

「でも、ときには優しくして？」

「そして、つけ上がらないように調教して」

「で、あいさつもともにできるのか？おまえは」

で、ここから千冬の弟だつてはれてからのまたきやーきやーなつてゝの

「しゝずゝかに！お前たちにはこれから半年でISの基礎知識を学んでもらう」

もう、覚えてますけど？基礎どころか応用まで。コア作れますよ？

「その後実習だが、基本動作は半月で体に覚えさせる」

専用機もってるからね？動かせるのは当たり前ですよ？帰っていいよね？学ぶものないよ？

「いいか？いいなら返事をしろ！よくなくても返事をしろ！」

「はいっ！」

あ、もちろん私は返事しませんでしたよ？よくなくても返事っていわれてもよくないんですから。あと、あの変態も返事してませんでした。いつまでばんやりしてるんでしょうか？

眼鏡がなにかしゃべってるけど、（こそこそ）あ、あった

ぴこぴこぴこぴこ

ばしんっ！

「へう！？」いたい・・・

「担任の目の前でゲームとはいいい度胸だ」

だってひまなんだもん

「じゃあ、退学でいいので帰っていいですか？」

「却下だ！篠ノ之樹里！」

名前でまたざわざわ。フルネームで呼ばなくてもいいんじゃない

かな？

「えゝ、なんで私ここにいますか？」

「あいつが学校ぐらい通つとくべきだつて言つてたぞ」

「えゝ、私何も学ぶことないですよ！」

いや、ホントに。

「口答えは許さん！ゲーム機は没収だ！」

「だめですよ？人の専用機を教師が没収する権利があるんですか？」

「なっ！？じゃあ、せめて授業中にやるな！」

周りがすごいざわついてるけど、するーでいいでしょう。どうせ学校はやめるのだし、関係のない人たちですか（ばしんっ！）にや！？

「この学園をやめることは許さん！3年間ちゃんと通つてもらつ！欠席でもしてみろ、留年させてでもこの学校にいさせてやるからな！覚悟しておけ！それと制服はどうした？」

やめさせて下さいよ！それに……

「心の中をよまないでくださいゝ！気づいたらここにいたんでこの服しか持っていないし持ち物も服に入れてたり元からつけてた物しかないんです！それにこの服も、っていうか持ち物ほとんどがISの

待機状態ですね？むしろ全部外したら裸になりますよ？それとも、脱がせたいんですか？そうなんですね！さすが変態の姉でs（ばしんっ！）しゅにゃっ！」

痛いです。出席簿をこの近距離で投げないでください！

「あ、あの先生。篠ノ之さんって、もしかして篠ノ之博士の関係者なのですか？」

モブの一人がおずおずと挙手して年増に質問する。

……まあ、篠ノ之なんて名字はそうそうないし、いつかはバレるのはわかってたけど、今ですか。

「ああ、篠ノ之はヤツ——篠ノ之束の娘だ」

おかーさんのことをヤツってよばないでください

「ええええーっ！す、すごい！このクラス有名人の身内が二人もいる！というか娘！？あの人結婚してたの！？」

してません。ありえませんが、もし近づく男がいたら吹き飛ばしますよ？

「ねえねえっ、篠ノ之博士ってどんな人！？やっぱり天才なの！？」

あたりまえです。おかーさんはすごい人なんです！

「篠ノ之さんも天才だったりする！？今度ISの操縦教えてよっ」

天才ですが、いやです。年増に習ってください。

授業中だというのに私の周りに女子がわらわらと集まる。

全く、迷惑です。べつ、別にいきなり囲まれて恐くなったわけじゃないんだからね！

こわくなんてないさ！（ガクガクブルブル）

「はあ……お前ら席につけ！そんなんでもまだ12の餓鬼なんだから」

注意する理由がおかしいですよ？……助かりましたが。しかし、大人しく席に戻ってくれましたが視線が痛いです。特に、変態とか殺人鬼の。

「お前は……まああいつの娘だしいろいろとnderのはわかるがこの学園では自重しろ。わかったな？」

「やです（ばしんっ！）はう！？」

角！？角で叩きましたか！？痛いですよ！！

「わかったな？」

「……はい」

どうしてこうなったんだろ？

ああ、クラスメートの視線が痛い……そして、怖い

こうして、私の学園生活（監獄生活）が始まった

第三話

Her skirt cannot be blown by the

とりあえず、電話してみた（探知はできなかった。何処にいるんだろ？）

樹「おかーさん？ご飯ちゃんと食べてる？」

東「東さんを誰だと思ってるのさ！」

樹「そうだよ。大丈夫だよ。」

東「カップラーメンとゆで卵だよ！」

樹「たしかに！たしかにおいしいけどさ！毎食カップラーメンはやめて！」

東「ちつつち！でも、きーちゃん、君は一つ勘違いをしているのだよ。」

樹「？」

東「昨日はとんこつ。今日は醤油。明日はみそなんだよ！」

樹「ほぼ同じ！もしかして予定とか・・・」

東「一か月先までスケジュールはうまってるのさ。」

樹「（駄目だこの人はやくなんとk・・・ん？これ理由にして学校やめれないかな？）・・・おかーさん学校やめて作りにいってあげ

る！
」

束「今日のご飯は麻婆豆腐にしようかな？」

樹「あう」

第四話

I l e a r n e d o f a c u r s e , a n d c o u

意識する存在にとって、

生きるということは変化することであり、

変化するということは体験を重ねることであり、

体験を重ねるということは無限に自分自身を創造していくことである。

第四話

I l e a r n e d o f a c u r s e , a n d c o u

なぜか入学初日からあった一・二時間目のIS基礎理論の授業を終えた。

あの変態が全くわからないとかおかしいことを言っていたけど、あんなの小学生でもわかるんじゃないだろうか？いつも女の胸ばかり見てるからそうなるんだ！

そして休み時間。

皆の視線は変態の方についてるわけではなく、むしろさっきの紹介のせいでこっちに視線が集まっている感じた。……ぜったいに目を合わせるものか！合わせたら力負けする自信がある！

あの年増の投下した私の個人情報という名の爆弾はナタームだったらしく決して消えてはくれないらしい。

「ちょっと、よろしくて？」

あーあー、聞こえてない聞こえてない。なんか口調が変な人が話しかけてきたっぽいけど、きつと気のせいだーあーあーあー！

「な、なんですよ、その反応は！？」

肩を揺さぶってきた。痛いです。つめ！つめが食いこんでますよ！？

めんどくさい上に痛いので目を上げると、白人らしい真っ白な肌

を怒りに赤く染めている貴族っぽいオーラを漂わすドリル人間がいた。そう、ドリルだ。しかも二つも！こんな人間、アニメの中だけ……あーここって小説の中だっけ？まあ、ここが現実なんだから思ってもいいだろう。無視、するーの選択で間違いはないだろう。そのまま、目線を机に向ける。おかーさんは学校で学べっていったらしいけど、今学校に来てやれてることと言えば、一人椅子取りゲーム（要は着席）ぐらいだ。

「なんで泣くんですの!？」

ドリルの目が恐いからです。自覚ないんでしょうけど、あなたの目の凶悪さとドリルの破壊力は測り知れないですよ？

「そのへんでやめてやれよ」

「なんですの！今はわたくしが話しているのですのよ!？」

！？二つ前の席の変態が近づいてきました。最悪です。……助かりましたが。

そのあといろいろドリルと変態が話していたんですがよくわからないうちに……

「極東の島国というのは、こうまで未開の地なのかしら。大体、文化としても後進的な国で暮らさなくてはいけないこと自体、わたくしにとっては耐えがたい苦痛で……（ry」

なにか私関係ない？よくわからない話になってますし。

「イギリスだって大してお国自慢ないだろ！世界一まずい料理では

何年覇者なんだ?!」

勿論、変態も黙っては居ないかった。……私の近くでそんなに怒鳴らないでくれませんか? うっさいです。それにイギリスにもおいしいものはたくさんありますよ? そして、まずい料理があるという点では日本も変わりませんよ? ただイギリスの方が多いただけ。それに私はカレーが嫌いですから、全国共通でカレーを出されたら嫌がりますよ? ……関係ない話になってましたね。

そこからは、ずっと売り言葉に買い言葉。いい年して、なに口喧嘩なんかしてるんですか。ホントに子供ですね。

キンコンカンコン　ここで、三時間目開始のチャイムが鳴った。

「っ……!　またあとで来ますわ!　逃げないことね!　よくって!?!」

次は、こつちには来ないで変態の席の方に行ってください。

最初の授業とは違って、年増が教壇に立っている。だけど……

「それではこの時間は実践で使用する各種装備の特性について説明する」

「じゃあ、保健室でゲームでもしてていいですか?」

「ほう、教師の目の前でサボリ宣言か! もちろん、却下だ! 馬鹿も

の！」

バシンッ！

はう、痛いです。年増はもうすこし手加減を覚えた方がいいですよ？

「ああ、その前に再来週行われるクラス対抗戦に出る代表者を決めないといけないな」

「クラス代表者とはそのままの意味だ。対抗戦だけではなく、生徒会の開く会議や委員会への出席……まあ、クラス長だな。ちなみにクラス対抗戦は、入学時点での各クラスの実力推移を測るものだ。今の時点ではたいした差はないが、競争は向上心を生む。一度決まると一年間変更はないからそのつもりで」

ざわざわと教室が騒がしくなる。うつさいですよ。この程度のこととでざわつくな！ですよ。クラス代表ですか。要するにめんどくさいことに巻き込まれる、そういうことですね。では、私は関係ないので流しときましょう。

「はいっ。織斑くんを推薦します！」

「私もそれがいいと思います！」

「では候補者は織斑一夏……他にはいないか？ 自薦他薦は問わないぞ」

「お、俺！？」

変態が大きな声を出して立ち上がる。視界に入らないでください。

「織斑、席に着け、邪魔だ。さて、他にはいないのか？　いないなら無投票当選だぞ」

「私は樹里ちゃんを推薦しまーす」

「私も」

「ちょ、まちやがれです。私はそんなのやりたくないですよ！？…それにいま樹里『ちゃん』って言いませんでしたか？　なんでそんなにフレンドリーなんですか！？　やめてください。」

「やです！　やですから辞退します！！　もし駄目だったら、退学でいいです！」

「ここはちゃんと自分の言いたいことを主張しておいた方が賢明でしょう。」

「却下だ！　篠ノ乃娘！　自薦他薦は問わないと言っただろうっ？」

「ちょっと待ってください！　納得がいきませんわ！」

ドリルが机をたたき立ち上がりやがりました。掘削機の名は伊達じゃないようです。すごい音をだしやがりました。それにしても迷惑です。……いや、そのままクラス代表になってもらいたい。

「そのような選出は認められません！　大体、男や子供がクラス代表だなんていい恥さらしですわ！　わたくしに、このセシリア・オルコットにそのような屈辱を一年間味わえとおっしゃるのですか！　？」

は？子供？関係ないよね？屈辱？勝手に味わっていてください。
……でも、クラス代表はお断りです。

「実力から行けばわたくしがクラス代表になるのは必然。それを、物珍しいからという理由で極東の猿や、その猿が推薦する凡人にされては困ります！ わたくしはこのような島国までIS技術の修練に来ているのであって、サーカスをする気は毛頭ございませんわ！」

……は？『実力から行けば』？ないわ。それは、ない。私に勝てるつもりですか？

「決闘ですわ！」

「おう。いいぜ。四の五の言うよりわかりやすい」

「言っておきますけど、わざと負けたりしたら私の小間使い……いえ、奴隷にしますわよ」

ほう、ドリルも変態さんだったんですね。奴隷とか。何をさせるつもりなのでしょう？いや、それよりも奴隷にさせるっていう考えがでるってことは本国、イギリスのほうではドリル用の奴隷でもいたのでしょうか？いたんでしょうね。関わりたくない分野の人間ですね。それよりもたしかこのドリル、変態のことを好きになりますね？それを考えたら、変態とドリル、お似合いだと思いますよ？……なんで、私の周りには変態（おかしさんは除く）しか集まらないのでしょうか？

「ハンデはどのくらいつける？」

「あら、早速お願いかしら？」

「いや、俺がどのくらいハンデつけたらいいのかなーと」

と、変態がここまで言うのをすましていただろうクラス中からドツと爆笑が巻き起こる。……なにになに？、男が勝てるわけがない？意味のわからない理屈ですね。たしかにISに乗った女性と何も持たない男が戦ったら女性が勝つでしょうが、二人ともISに乗れるんですよ？でも、代表候補生であるドリルを相手について最近ISを動かしたばかりの『ド』がつく素人、しかもさっきの授業でも分かるように基礎の基礎の基礎という名の常識さえも分かっていない変態がハンデをつけるとか……自殺行為ですね。ドリルにハンデを付けてもらうのが正解です。

「じゃあ、ハンデはいい」

当たり前です。何を考えてるんでしょう？……いや、なんにも考えてないでノリで言ったんでしょうね。

「ええ、そうでしょうそうですね。むしろ、わたくしがハンデを付けなくていいのか迷うくらいですわ。ふふっ、男が女よりも強いだなんて、日本の男子はジョークセンスがあるのね」

あの、だからあなたは何言ってるんですか？その前提が間違ってるんですよ？まあ、ハンデに関しては同意ですが。

「さて、話はまとまったな。それでは勝負は一週間後の月曜。第三アリーナで行う。最初は織斑とオルコットで戦い、勝った方が篠ノ乃娘と戦う。織斑とオルコットと篠ノ乃娘はそれぞれ用意をしておくように。」

あれ？私もいつのまにか戦うのですか？まあ、そこについてはドリルが「私最強」宣言をしてくさりやがったので、ぶち倒しましょう。ドリルと変態では、実力的にドリルが勝つでしょうし。しかし、準備といってもなにもなくていいんですが？あと……

「勝ったら退学にしてください」

「だから却下だ！篠ノ乃娘、しつこいぞ！」

ガンツツツ！！！！

角……角ですか。痛いです。なんで私だけ、角なんですか。お願いしただけなのに、最悪です。年増のくせに。それだから結婚できないんですよ！！

ガンツツツ！！！！

「余計な御世話だ、馬鹿もの！」

……だから、だからなんで心を読めるんですか！？最悪です。

「それでは授業を始める」

頭がズキズキするう……

……ここからまた、知っていることを解説されるという無駄な時間を過ごした。

第四話

I l e a r n e d o f a c u r s e , a n d c o u

IS診断で「篠ノ之 樹里」で調べたら『打鉄』とでた。
本名（作者の）で調べたら『』とでてきて判定されなかった。

IS適正診断。よかったらやってみてください♪

<http://shindanamaker.com/98242>

|

IS設定 【竜宮之姫】 + α（前書き）

IS設定 注意事項

？作者は武器系の知識が乏しいため武器の詳細が微妙です。

？武装・能力に関してはどうやってそうなっているのか、そんなことは書ける気がしません。

？ISのコアが作れるからと言って、いくつもつくるな？知りませんよ。一回しか出てこないISっていうのもあっていいじゃないですか！

？あれ？このISどこかで・・・すみません、勝手に他のところから武装を引っ張ってきてる場合があります。そこら辺はご容赦ください。

？他のアニメから持ってきたものもありますが気にしないでください。

以上！……………たぶん

IS設定 【竜宮之姫】 + α

ISのコアは世界に467機しか存在しない

と、あるのだが実際には600機存在している。それはなぜか？

………篠ノ之樹里がただ、「467機って切りが悪いよね？」と言
い133機作ってしまっただけだった。

名称； 【竜宮之姫】^{オトヘメ}

操縦者 篠ノ之樹里

製作者 篠ノ之樹里

世代 第？世代（5世代以降）

待機状態 服（ゴシック・ロリータ（GOSICKのヴィクトリカ
が着ていた物をイメージしてもらいたい）；色は白一色）ようは、
白ゴス。

カラー；白

コンセプト；動きたくないんで、勝手に倒れてください。アンチI
S型IS。対多戦用。

AIの名前；ひめちゃん

追記；ISのコアを機体に2個、『天罰術式』に1個使用している。
通常のISのエネルギーが600だとするとこの機体のエネ
ルギーは6000000。

またエネルギーは時間とともに回復するので実質無限。

基本武装

近接ブレード【舞姫】

・扇子型ブレード。エネルギー反射装甲になっているのでエネルギー系の武器はこれで跳ね返すことが可能。

特殊武装

シールドビット【戦わざる者】（10000機）

・その名の通り、シールドビットが10000機。実弾、エネルギー弾全て防ぐことができる。

・防ぐだけでなく、跳ね返すことも可能。

・またエネルギー弾に関しては吸収しエネルギーに変換することが可能。

・【ブルーティアーズ】のビット兵器を大きく上回る機動力を持つ。

Q：操作できるのか？

A：一応天才なのである程度の制御は可能ですが、ほとんどAIに任せてます。

浮遊機雷【動かざる者】（10000機）

・空中に配置すると光学迷彩で空間に溶け込み、普通のハイパーセンサーでは感知し辛い

自律行動をしており、無音移動をしながらISを探し突撃してゆく。

Q：運動神経ないのにこんなの装備して大丈夫？

A：大丈夫！動く気ない♪

常時展開型特殊システム；『天罰術式』

・この機体に対し、相手のIS操縦者が悪意や敵意を抱いた場合、距離・場所を問わずそのISの機能を低下・シールドエネルギーの減少、あるいは停止させる。（コアの再起動には篠ノ之束あるいは篠ノ之樹里の許可が必要になる。）

・一度姿を認識さえしてしまえば、時間が経過してから思い返して敵意を向けてしまった場合でも影響下に入る。

・ISのコアに直接働きかけるので、防ぐことはほぼ不可能。発動にISのエネルギーは必要としない。

・ただしこのシステムはこの機体を完全解放時のみ有効。（シールドビットのみの部分解放だと発動しない。）

ワンオフ
単一仕様能力；『一方通行』

・＜向き（ベクトル）＞を操る能力。

・運動量・熱量・光・電気量etcといったあらゆるベクトルをIS自体あるいはビットに触れただけで感知・変換する能力。

・普段は「反射」に設定されていて、機体を狙った攻撃は全て方向を変えられ、反射される。

・大気に触れる事で風全体を操作しM7クラスの暴風を発生させたり、空気を圧縮し原子を強引に分解させプラズマを作り出し、地球の自転エネルギーを一部吸収して強烈な破壊力の攻撃に変換するなども可能。

名称；【後藤^{ごうてん}】

操縦者 篠ノ之樹里

製作者 篠ノ之樹里

世代 第二世代

待機状態 ハリセン

カラー；白

コンセプト；お遊び用IS。他のISを製作するなかで出来上がったくだらないものを詰め込んでしまった作品。自分用のISの中で唯一の第二世代型。ただし、拡張領域が通常の第二世代の50倍程^{ラファール・リヴァイブとする}

度ある。

基本武装

ブレード【雅】

・Angel Beats!の天使が作り出すハンドソニック的なもの。

搭載兵装

近接ブレード【ネギ】

・ネギ型のブレード。ただ、ネギの形をしているだけでなく、相手を切る、あるいは掠る、罅迫り合いになるといった状況において先端の緑色の部分からネギの成分が噴出される。またこの成分はISのシールドを通過するので、目に染みる。

近接ブレード【釘バット】

・ただの釘バット。イメージのなかの不良とかがもってそうなのをそのまま大きくした物。見た目は凶暴だが、所詮釘バットなのでISのブレード等には勝てない。攻撃力的には【ネギ】に劣る。

近接ブレード【ハリケン】

・オリハルコンと言われる金属でできている。ごっちゃん最強の武装。

近接ブレード【アーマーシュナイダー】

・刀身にビームエネルギーを宿すことが出来、ISのシールドエネルギーを貫くことも可能。

・ぶっちゃけ変態のISの零式白夜と同じ。（展開装甲かそうでないかの差。）

電磁ワイヤーウィップ【愛の鞭】

- ・一万ボルトの電流が流れる電磁鞭。

モーニングスター【パンプキンシザーズ】

- ・モーニングスターはモーニングスターだよ。

火炎放射器【モンブラン】

- ・説明といっても普通の火炎放射器。ただしIS用ではなく一般的な物。

超高精度カスタムスナイパーライフル【サジタリアス】

- ・遠距離からの狙撃のみを目的として改造されている。

設置式罠【バナナの皮】

- ・バナナの皮をそのまま大きくしたものの。
- ・ただし、ただのバナナの皮と侮ってはいけない！これを踏み転んでしまうと、機体の武装が10秒間全てロックされ出せなくなる。
- ・また、踏んだら必ずこける不思議仕様。

設置式罠【まきびし】

- ・忍者がよくまくあれである。ただし、ISに効果があるかは不明。

対空武装【空き缶】

- ・ただの空き缶。拡張領域を大きくし過ぎて何か入れるものはないか悩んだ結果、ゴミ捨てを忘れていた大量の空き缶をつつこんでみた。

対空武装【腐った卵】

- ・装備した当初はちゃんとした生玉子だったのだが装備したままだったので腐った。理由としては、買ったその日はすき焼きにするつ

もりだったのだが束がめずらしく料理をしてくれたため嬉しさで忘れていた。

特殊諜報活動用シールド【ダンボール】

・このISを囲えるほどの大きさになっている。

Q：なんでダンボールなんですか？ A：わからないけど、この箱を見ていたら無性に被りたくなっただ。いや、被らなければならぬという使命感を感じたと言う方が正しいかもしれない。

Q：使命感？ A：ああ。こうして被ってみると、これが妙に落ち着くんだよ。うまく言い表せないけど、いるべきところにいる安心感というか人間はこうあるべきだとう確信に満ちた安らぎのようなものを感じるのだよ？

・またこの武装だけをだすことも可能で、その時はもちろん人用。樹里一人分だけではなくの段ボールをだすことも可能である。

・ああ、癒される。

特殊諜報活動用シールド【ロッカー】

・ロッカーは諜報活動における必需品である。

・古来より多くのスパイがロッカーを活用し任務を成功に導いてきたとされている。

・これもまた、段ボールと同じように人用として出すことが可能。樹里一人分だけでなく複数人分出すことが可能。

特殊武装

【割りばし】：コンビニで貰える割りばし。10膳装備してある。

【スプーン】：コンビニで貰えるプラスチック製のスプーン。3個装備してある。

【紙コップ】：コンビニで買った紙コップ。30個入り。

【小麦粉】：500g×100。

【マッチ】：5箱。

【IS学園で一般生徒に配布される教科書類。1人分】：束がここに入れておいたのを言い忘れていただけ。

ごめん！作者の想像力が貧困過ぎて【ごっちゃん】の武装が思いつかない！HELP！！ちゃんと使うからHELP！！

ちなみに三機目の名前は【黒鬼】：黒ゴスの服です。まだ設定が途中なので載せませんでした！すみません。

IS設定 【竜宮之姫】 + α（後書き）

次は黒鬼 + なにかの設定を作り次第載せようと思ってます！でわわ！

- - - - -
- - - - -
- - - - -

・元ネタ

【ごっちゃん】：絶対 霊域という4コマ漫画にでてくる主人公の自称あだ名（自分であだ名を作ったのはいいけどよんでももらえない）
を持ってきました。

第五話

The underwear a girl wears is

死に至る病、それは絶望だ。

自分のなかにあるこの病は、英急なる死を意味し、

死ぬべくして死ねないことなのだ。

それは死を死ぬことなのだ。

樹里があまりしゃべりませんがすみません、内気（腹黒）な子なんです。

第五話

The underwear a girl wears is

放課後・・・

どうすればいいのか分からなかったので、そのまま机でぐだーっとしていた。持ち物をほとんどにも持たずというか持ち物すべてISの待機状態という変な状態で、しかも全部は持ってきていない。住む場所もお金もなにも持ってない。どうしろというのだ………しかも、教室の中で変態と二人つきりな最悪な状況。しかもあつちからちらちらこつちをみてるし。……視姦とか、やめてください。

「ああ、織斑くん、樹里ちゃん。まだ教室にいたんですね。よかったです」

眼鏡が書類を片手に安心したような顔で言ってきた。なんでそんなにあわててるんだろ？……変態、なんで胸を凝視してるんですか？変態というかもう、ペドって呼んだ方がいいですか？

「えつとですね、寮の部屋が決まりました」

「俺の部屋、決まってるじゃないやなかったですか？前に聞いた話だと、一週間は自宅から通学してもらって話でしたけど」

「そうなんですけど、事情が事情なので一時的な処理として部屋割りを無理矢理変更したらしいです　　樹里ちゃんもです。」

まあ、あの変態に関しては今頃自宅にはいろんな人が行ってるんで

しょうね。変態といつても一応男で唯一ISを動かせる男人間なんだし。あと、ちゃん付けはやめてくれませんか？

「あの、おかーさんのそこには帰れないの？」ぐすんっ

「えー？あーそれはすねその……夏休みとか長い休みもありますし、その時にまた織班先生に聞いてみてはどうでしょう？ね？樹里ちゃん？あとは、電話とかしてみたらどうでしょう？」

たぶん、むりでしょうね。卒業するまで……あれ？そういえば、赤椿渡す時に会えないかな？会えたらいいな、会えなかったらたぶん、おかーさん成分不足で死にますね。

「じゃじゃあ、織班くんは1024室。樹里ちゃんは1023室です。樹里ちゃんは一人部屋ですが、なにかこまったことがあったら気兼ねなく言ってくださいね？」

困ったこと……おかーさんに会えなくて困ってます。助けてください。

私は自分に割り当てられた1024室の鍵を開けて中に入る。運良く同室のものがいない一人部屋を手に入れ、私はなかなかの上機嫌だった。まあ、これでおかーんがいたら完璧なんです。無理やり学園に入れられたのにいろいろと有り過ぎです。

あれ？なぜか荷物が……おかーさん！荷物を持ってきてくれるぐらいなら一緒に来て下さいよ……あれ？【黒鬼】が入って

ませんよ？あれ？まあいいですけど。

荷物をいろんなところに……置くほどないんでベッドの横に置いときます。あれ？この部屋一人部屋なのになんでベッド二つあるんですか？まあ、あれですね！おかーさんが来たときのためですね♪

ズドンッ！！！！！

隣の1025室の方、つまりは変態と殺人鬼の部屋から騒がしい声と何かの破壊音が聞こえてくる。まあ、ここは触れない方がいいでしょう。ここは触れない方がいいでしょう。もし、扉を開けてもすればこの部屋に入りこんで来るでしょう。まあ、念のために鍵w「すまん、樹里さん。お願いします。匿ってください。まずいことになりそうなので。頼みます。頼むホントに！」

この変態、私の部屋にাগりこんできやがりました。押し返そうにも、所詮体力は幼女、この変態の腕力に勝てるわけもなく、というか触りたくないんで入りこまれてしまった。なんですか？どんだけペドなんですか？いきなり女の子の部屋に侵入するなんて、どんな鬼畜ですか？

「か……かえつてよお」ぐすんっ

これで大丈夫！『小さな女の子の涙は最強です！』説は確実です！自分で言って悲しくなりますけど。『かわいいは正義！』です。嘔泣きですが。

「あ、えつとお。すまん！すこしだけ！すこしだけでいいからっ！」

その言い方はなにか、卑猥です。やめてください、私にふれない

でください。同じ空気を吸わないでください。けがらわしい。

「そこまで、嫌そうな顔をしなくても……」

この変態、なに当たり前みたいな顔してるんですか。こっちみないでください。そして、そのままどこかに行ってください。その前にここから出て行ってください。

カチリ

！？この変態、鍵を閉めやがりました！！え………なんで笑顔で近づいてくるんですか！？や、やめてください！！ちよ、まてて「ひさしぶりだな！樹理！」は？

「いや、懐かしいな！5年ぶりか？」

いやいやいや、5年ぶりですがなんでそんなにやにやとにやけ顔で近付いてくるんですか！？ちよ、もう壁にぶつかりましたよ！？ちよ、まててください！

「ほんとに変わってないな」

いや、余計なお世話です！だからこっちこないでくださいって！

「ん？どうした？そんなに震えて、風邪でも引いたのか？」

ちよっ！？震えてるのはあなたに襲われてるからであって風邪じゃないですつてば！！それに風邪ひいてる女の子を襲うつてホントにペドすぎますよ！？そして、顔近付けて何するつもりですか！？やめ、やめてー！！………ん？でこ………いや、それも嫌ですよ？

熱測るってやめてくださいって、ホントに。少し安心しましたが、
そういえばこの変態は無意識にセクハラするんでしたね。でも、鼻
息あらいで恐いです。

「……熱はないようだな。ん？顔も赤くなってるみたいだし、早く
寝ろよ？」

だ〜か〜ら〜！はやくでてい〜（コンコン）だれかが来たみ
たいだ！助かった♪

ドゴンッ！

は？なんでいきなり？ドアこわされた……

そこには鬼の顔（注：鬼のような顔ではない）をした殺人鬼が木
刀を片手にこちらを睨めつけていた。

「一夏！なにをしている！？」

お前が何をしている！ですよ。なんで木刀なんてもってるんです
か！？たしかにこの変態に襲われるということは避けれそうですが、
なにドア壊しやがってるんですか！？まあ、木刀で壊れる扉だった
つていうのが少しショックですが。ちゃんと弁償してもらえますよ
ね？……おかーさんが払いそうですが。

「箒！？樹里！助けてくれ！」

いやですよ！ちょ、なんで抱きついてくるんですか！？そして私
の後ろに隠れるんですか！？

「そこをどけ！一夏！さつさと戻ってこい！！」

はい！どきます！どきますんでさつさと警察に銃刀法違反で捕ま
r……この変態を連れて行きやがれです！そして、変態は何処触っ
てやがんですか！ちよっ、そこ胸！胸にすこし触ってやがります！
？そして顔がお尻にちよっ、やめなさいってば！だから殺人鬼は！
木刀振り回すなです！なんで私に………ちょ、ああ………

と、まあ気が付いたらベットの時刻は朝の8時

ただ、頭に包帯が巻かれていて、頭痛がしたので大体のことは把握できた。

早くおかーさんのところに帰りたいです

第五話

The underwear a girl wears is

(＊、ω、＊) 私はこの顔文字を応援します

すみません、ラストが微妙なので訂正するかも

IS設定 【黒鬼】 + 【鷹目】（前書き）

べっべつにあの変態VS中華娘のときに乱入してきた無人機にあ
こがれたわけじゃ・・・アニメみて、かつこいいなあれにのりたい
な・・・と思ったわけじゃないんだからね！

IS設定 【黒鬼】 + 【鷹目】

名称；【黒鬼^{くろき}】

操縦者 篠ノ之樹里

製作者 篠ノ之樹里 篠ノ之束

世代 第？世代

待機状態 服（ゴシック・ロリータ（GOSICKのヴィクトリカが着ていた物をイメージしてもらいたい）；色は黒一色）ようは、黒ゴス。

外見；変態と中華娘が最初に戦ったときに来た全身装甲無人機^{フルスキン}。

カラー；黒

コンセプト；全距離対応型。あらゆる局面で相手に攻撃を与えることなく攻撃を与える。射撃に関しても面での攻撃が可能。また、射撃しながら殴ることも可能。【近距離と遠距離の攻撃を臨機応変に切り替え、ビーム出力はセシリアのものより上。】とあるが実際の威力はセシリアと比べられないほど。指の先から出すビームもISのエネルギーをかすただけで半分ほどは削ることが可能。

AI名；黒姫ちゃん^{くろき}

弱点；すごい疲れる。幼女ボディはここが痛い。

備考；【竜宮之姫】と同じくISのコアを3機積んでいる。

エネルギーに関して同様。樹里自身がばてるまで稼働が可能。（使用後は筋肉痛になる）

AI独自での運用も可能。

基本装備

・腕は大木のように太く、身の丈ほどの大きさがあり、使用者の手の動きにリンクするジェット噴射装置が装備されている。
・また、両肩、両腕、両手、全ての指、腹部、顔面からビームを出すことが可能。（ただし、それぞれの部位によって威力が異なる。）

（ただしこれより下は、無人機として来るときは束にはずされている）

- ・各部についているビームを出しながらの運用も可能。
- ・また、これらのビームは演算により曲げることが可能。

特殊兵装

ビット兵器【黒式】 8機

- ・ビット兵器。このビットはレーザーを出すだけではなく、打突用でもある。常にイクニッションブースト並みの早さで動き回る。

ピンポイントバリア【黒衣】

- ・最大5か所に出すことが可能。実弾、ビーム兵器を防ぐことが可能。

対集団仕様武装【黒剣】

- ・両肘に装備。鋭利で長大な刃で、斬撃に合わせて帯状の攻性エネルギーを放つ。

大型スラスター&広域射撃武器【黒翼】

- ・108の砲口をもつウイングスラスター。高密度に圧縮されたエネルギー弾を全方位へ射出するとともに、常時、瞬時加速と同程度の急加速が行える、高出力の多方向推進装置。

名称；【鷹目】

操縦者 篠ノ之樹里

製作者 篠ノ之樹里

世代 第？世代

待機状態 眼鏡（伊達）；色は赤

カラー；レッド

コンセプト；地球の裏側まで狙ってやる！射撃特化型IS。

AIの名前；イー君

問題点；？射撃にのみ全てをかけてしまったため（武装が大きい&重いため）、発動したら解除するまでその場から移動することができない。？樹里の体が幼女ボディもといわつちいので【活殺自在】数発打ったら両肩が外れる、あるいは砕ける。

基本武装

・超長距離狙撃用ライフル【活殺自在】；射程距離は 6356 . 752 km。実弾装備。（だれか口径の説明を頼みます。人ぐらいの・・・180cmって何口径でしょうか？）

・荷電粒子砲【善悪の彼岸】；空气中の静電気を荷電粒子吸入ファーンによって取り込んでエネルギーに変換して圧縮し、光速にまで加速して撃ち出す。ISのエネルギー（白式を標準とする）程度ならかすった程度で0にすることが可能。また直接あたったら機体ごと吹き飛ばされる。

特殊武装

鏡型ビット13機【ミラー・ゲート】；これ自体には攻撃性は皆無だが、【活殺自在】による射撃を当てると、他の鏡型ビットから弾がでてくる。また、カメラ付き。また機動力は百式の理想最大速度

よりすこし早い程度。

【おかーさんのノートパソコン】：使わなくなったものを貰った。これを使い衛星をハッキングする。天才に不可能はない。おかーさんからもらったものなので無駄に性能がスパコン並みにある。

常時展開型特殊システム

？絶対等速^{イコールスピード}

・狙撃した弾が壊れるまで、前に何があろうと同じ速度で進み続ける。

・一度に複数の弾丸に能力を使う事も可能。

・ただし、このシステム使用時は【活殺自在】でのみ使用可能。

？知られざる英雄 ミスターアンウン

・この機体の存在を他人に一切認識させず、人の記憶から発動した事実や接触した経緯をも消すことが出来る。この機体は体の構造を無視してしまっているので、束に禁止されている（使ったら確実に肩に怪我を負う）ため、見つかって嫌われないように見つからないようにするためだけにつけた機能。

IS設定

【黒鬼】 + 【鷹目】（後書き）

さて、主人公補正？なにそれ、おいしいの？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2175t/>

IS（インフィニット・ストラトス）～え？・・・狙ってませんよ？ホントです

2011年11月15日17時55分発行